



顧客の事務効率化と内部統制強化へ インターネット為替予約サービスを提供

NSSOLのSaaS「CrossMeetz」でサービスを向上

背景

法人事業者向けに、高い品質と操作性を備えたインターネット為替予約サービスを提供したい。顧客の事務効率化および内部統制強化といったニーズに応え、電話での取引に起因するミスコミュニケーションを減らしたいと考えた。



株式会社西日本シティ銀行
執行役員
国際部長
廣田 真弥氏



株式会社西日本シティ銀行
国際部
副部長
日隈 正人氏

ソリューション

新日鉄ソリューションズ (NSSOL) の「CrossMeetz」を活用し、初期投資を抑えて短期間で実現。自動締結、競争力ある取引レートの提示、リブオーダー(指値注文)の受け付けと自動執行などの機能の優位性を評価した。

成果

インターネット為替予約サービスを九州の地域金融機関として、初めて法人事業者向けに提供できた。開発段階で、提供機能やシステムの操作性に関する助言をNSSOLに行い、サービスの利便性を一段と高めている。

顧客ニーズに対応し、インターネット為替予約サービスを検討

福岡県を中心に206店舗を展開する西日本シティ銀行。2011年4月から3年間にわたる中期経営計画「New Stage 2011～元気よく～」を開始し、「時代の変化に対応した総合金融サービス業への進化」と「徹底した生産性の向上」をコンセプトに顧客の目線に立った最適なサービスの提供に取り組んでいる。

同行がインターネット為替予約サービスの検討を始めたのは、2004年6月に遡る。当初は行内の業務効率化のために検討していたが、最近では顧客から事務効率化や内部統制強化に対する要望が寄せられるようになっていた。インターネット為替予約サービスでは、こうした要望にも対応できる。同行は「システムの操作性の高さ」「顧客における社内情報の共有しやすさ」などに優れた新サービスの実現を目指した。

NSSOLが開発を進めていた「CrossMeetz」を選択

西日本シティ銀行が新サービスの基盤として選択したのは、新日鉄ソリューションズ (NSSOL) が開発していた「CrossMeetz」である。これはホワイトレーベルの対顧客向け外為総合インターネットサービスで、同行はその為替予約サービスを採用した。実勢レートの配信/取引レートの提示/カバー取引の執行を自動化できる、リブオーダー(指値注文)の受け付けと自動執行が可能などの特徴がある。ドイツの360 Treasury Systems AG (360T) と提携しており、実際の取引レートの競争力も非常に高い。

導入プロジェクトは2010年末から始まった。西日本シティ銀行は新サービスに対する行内の業務フローを整備するとともに、CrossMeetzの提供機能やシステムの操作性に関する助言をNSSOLに行い、ユーザーの視点から完成度の向上を支援した。

初期投資を抑えて、九州の地域金融機関として初めてサービスを開始

こうして西日本シティ銀行は2011年10月31日、九州の地域金融機関で初めてとなるインターネット為替予約サービスを「NCBダイレクト為替予約」の名称で開始した。

成果は大きい。CrossMeetzはSaaS型のインターネットサービスであるため、西日本シティ銀行は計画通り、初期投資コストを大幅に抑制している。

NCBダイレクト為替予約を利用すると顧客は、取引履歴を自動的に記録できる、為替予約の残高といった情報を社内で共有できる、取引金額の上限が設定できるなど、事務効率化や内部統制強化を進められる。また、リブオーダー注文時には、顧客に不利となる取引の入力を防ぐ誤入力防止機能もある。取り扱い開始から5カ月後の2012年3月末時点で44の法人事業者がNCBダイレクト為替予約を利用している。

Key to Success

西日本シティ銀行がインターネット為替予約サービス「NCBダイレクト為替予約」の提供に取り組んだのは、法人事業者の事務効率化と内部統制強化を支援するためである。

執行役員 国際部長の廣田真弥氏は「当初は当行の業務効率化を目的に検討を始めたが、お客様と話す度に事務効率化と内部統制強化のために導入したいというニーズが強いことが分かりました」と語る。

為替予約を電話で行う場合、取引締結までに営業店や本部など複数の拠点が介在するため、銀行にとっての事務効率は良くない。一方、顧客にとっては取引の履歴や為替予約の残高などの情報を社内で共有しにくいという内部統制上の課題が存在する。

インターネット為替予約サービスであれば、こうした両者にとっての課題をシステムによって一気に解決できる。

多くの為替予約サービスを検討した結果、西日本シティ銀行は、新日鉄ソリューションズ (NSSOL) がSaaS型サービスとして開発を進めていた「CrossMeetz」に着目。CrossMeetzの為替予約機能の採用を決定する。

廣田氏は「NSSOLには、市場系の金融システムに関する実績があります。CrossMeetzは自動締結やリブオーダー(指値注文)など、他にない機能も多く備えていました」と振り返る。

2010年末から始まった導入プロジェクトで西日本シティ銀行は、為替予約サービスに対する行内の業務フローを整備しながら、顧客に提供するCrossMeetzの機能や画面操作性についてNSSOLに数々の助言を行った。

国際部 副部長の日隈正人氏は、「高い品質のサービスを目指して、1000以

上の項目を洗い出し、一つひとつ対応していきました」と語る。

開発を行うNSSOLへの助言でCrossMeetzの完成度を高める

NSSOLは、西日本シティ銀行の助言によってシステムの完成度を大幅に高めた。特に、UX (ユーザーエクスペリエンス)は、入念に改良している。

例えば当初は、取引通貨の種類や金額といった多くの項目を一つの画面で入力する設計だった。その画面は慣れないと使いにくいと、複数の画面で少しずつ項目を入力する画面も用意して、顧客が選択できるようにした。

「自分の経験に照らし合わせながら、より入力しやすい画面を開発してもらいました。また、明らかに市場実勢相

場から乖離した顧客にとって不利な数値を入力した場合は、注文を受け付けないようにしています」(廣田氏)。

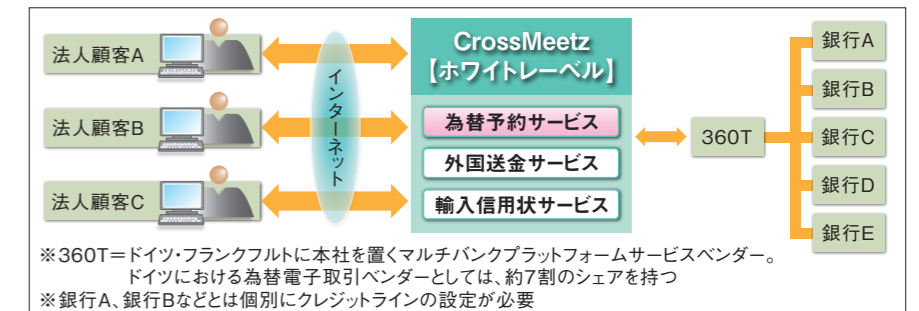
こうして、西日本シティ銀行は、2011年10月31日からインターネット為替予約サービス「NCBダイレクト為替予約」の提供を開始している。

満足度は高い。日隈氏は「CrossMeetzはドイツの360Tと接続することで、競争力のある取引レートを提供しています」と語る。

廣田氏は「操作性が高く誤入力を防ぐことができる上、取引に関する情報共有がお客様の社内で容易にできる、といった特徴を備えたインターネット為替予約サービスが初期投資を抑えて実現しました」と評価する。

顧客の評価も高い。「デモをお見せすると、使い勝手がとても良いという反応が多く、既に44社のお客様にご導入いただいています」(廣田氏)という。

■CrossMeetzサービスイメージ



■西日本シティ銀行がCrossMeetzの為替予約サービスによって提供する「NCBダイレクト為替予約」



■コアテクノロジー

absonne (アブソンス)、360T、UX (ユーザーエクスペリエンス)

■システム概要

- クラウドサービス：外為総合インターネットサービスCrossMeetz
- ネットワーク：インターネット